

### 3 地域の活性化・地域課題の解決に向けた連携事業

#### 3-1 学生活動への支援事業

地域連携に関する事業に関し、地域からは学生の地域参画に対するニーズが高まっている。自治体等の団体が企画した事業に学生ボランティアを募集して参画する事例は多いが、当該事業の内容について、教育的配慮のあるものは少ない。

地域連携を通じた学生への教育的課題として、地域の抱えている問題を理解し、行動に移す能力を養い、将来的に地域の発展に貢献できる学生の育成も重要であるとする。

今回、まずは学生の自主性を尊重し、主体的に地域住民と連携して地域課題の解決に向けて活動できる事業について、センターの重点事項として実施した。

#### A) 学生チャレンジ事業

##### ・趣旨

キャンパスや地域をフィールドに、地域の人々や団体と連携し、地域を元気にする事業について学生から募集し、審査によって採択された団体について、活動費の一部助成やアドバイスを実施することにより学生による地域連携事業を応援し、地域貢献について関心を高めることを狙いとしている。平成24年度から実施しており、平成27年度で4回目となる。

##### ・実施状況

<平成25年度>

応募 18団体 採択 7団体

1	小水力発電による白山市白峰「雪だるま祭り」のライトアップと再生可能エネルギーの普及促進	5万円
2	「聞き書き」を活かした学生主体の全人的ケアコミュニティ拠点「ココチカフェ」	5万円
3	能登の里山と観光資源の再生「基石ヶ峰クラフトマーケット開催における交流人口の創出」	5万円
4	金沢アートキャンパス- kanazawa art campus -	5万円
5	金蔵ブランディング —地域活性化と大学生の実践スキル獲得—	3万円
6	過疎地域商店街における障がい者の居場所づくりと地域の活性化(門前たまり場プロジェクト)	3万円
7	町並み模型づくりを通じた地域交流とまち案内による地域の魅力再発見プロジェクト	3万円

<平成26年度>

応募 8団体 採択 5団体

1	地域資源を活かした能登島活性化事業	5万円
2	第2回 金沢アートキャンパス - kanazawa art campus -	3万円
3	金大祭における【金沢和傘×プロジェクトマッピング】	3万円
4	石川トランプ 金沢大会および県内他自治体での大会開催	2万円
5	アヂチ谷における金沢大学農園としての里山の活用	2万円

<平成 27 年度>

応募 5 団体 採択 2 団体

1	足湯による地域の見守り寄り添い事業	5 万円
2	学生と農家たちの連携による河北潟活性化 プロジェクト	4 万円

・評価

毎年、学生らしいアイデアによる地域貢献活動を募集し、継続的な支援を実施。平成 25 年度からは、学生チャレンジ採択団体と地域で活動している団体との交流も兼ねた学生チャレンジ報告会を実施し、個々の団体の情報やつながりを共有することを目的に学生間の親睦を深めた。

採択団体としては、継続性を以て地域に根差した活動を実施している団体や、試行錯誤しながらも地域活性化を新しく模索する団体がある。その一例として、石川トランプを作成する学生団体「飛脚」は、自分達で考案し制作した石川県の全市町の魅力を詰め込んだトランプを使って、郷土学習の教材や地域の魅力発信のツールとして普及活動を行うばかりでなく、商品化を目指した取り組みにまで活動を拡げている。このことから、学生チャレンジ活動を通して、地域とのつながりのみならず、経営知識と実践に関する教育的効果も高いと言える。



【H25 年度 ここちカフェ】



【H26 年度 石川トランプ】



【H27 年度 灯（あかり）】



【H27 年度 学生チャレンジ事業報告会の様子】

## B) 社会貢献のための学生ネットワークの構築

### ・趣旨

学生チャレンジ事業の採択学生グループによる報告会及び地域貢献に感度の高い学生に参加を呼びかけ、学生グループによる活動報告を実施し、それぞれのグループの活動報告及び情報交換の場を作った。その中で学生の中でお互いの活動について情報交換を図るだけでなく、学生による地域貢献学生による地域貢献活動についてゆるやかなネットワーク（KUSAT）を構築して、学生の地域連携活動を支援する。

### ・実施状況

<平成 25 年度>

2月 KUSAT の事務局企画の学生チャレンジ報告会及び交流会を実施

3月 KUSAT のパンフレット作成

<平成 26 年度>

8月 オープンキャンパスでの活動紹介（総合教育棟で実施）

2月 学生チャレンジ及び地域貢献活動実施団体による活動報告会及び交流会

3月 KUSAT のパンフレット作成

<平成 27 年度>

8月 オープンキャンパスでの活動紹介

2月 学生チャレンジ及び KUSAT 活動報告会

3月 KUSAT のパンフレット作成

### ・評価

学生チャレンジ事業の報告会と併せて、KUSAT メンバーによる活動報告会を実施し、各団体間での情報共有を図っている。また、各団体共通の課題である活動継続のための部員の確保について、オープンキャンパスでの活動ポスターの掲示や、新入生配布用のパンフレットの作成を行い、KUSAT メンバー全体としての広報活動を実施している。H28 年 3 月時点での KUSAT 登録団体は、13 団体となり、各団体の活動内容を発信するホームページも学生によって作成中であり、今後学生による自発的な連携活動が期待される。



<H26 年度 学生チャレンジ&KUSAT 活動報告会の様子>



<オープンキャンパスでのポスター掲示> <KUSAT パンフレット>

### C) IPPO WORKSHOP

#### ・趣旨

大学生活に対して物足りなさを感じている学生（もやもやしている層の学生）を対象に、日頃感じていることを語りあう場を設定することにより、何かに一步踏み出すきっかけとなることを目指し実施する。

#### ・実施状況

アカンサスポータルで、何か物足りなさを感じている学生に向けて“IPPO WORKSHOP”と題して周知。平成26年11月から平成27年6月までの間で、計5回開催した。参加人数は、延べ21人。大学1年生～大学院生まで、学年は様々であった。

BGMを流し、お茶・お菓子を食べながら（お菓子代100円徴収）、ざっくばらんに話せる雰囲気作りを心掛けた。

#### ・評価

参加者からのアンケートでは、IPPO WORKSHOPへの参加のきっかけとして、「学内での自分の居場所はどこか?」「自分の大学生活はこれでいいのか?」「やりたいことがあるけど、なかなかできない。」「何か夢中になれるものを見つけない。」等の回答が得られ、大学に自分の居場所を求めたり、大学生活に物足りなさを感じている学生は顕在化しないだけで多くいるのではないかと感じる。

IPPOでは、大学生活について日頃感じていること、これから大学生活をどう過ごしたいか等、毎回自由なテーマで感じていることを語り合ったり、共感したりした。

また、参加した学生には当センターで実施しているイベントへの参加・協力を促すことで、学生同士の交流・地域との交流の場に踏み出すきっかけづくりを行った。当センターが企画するタウンミーティングに参加したある学生は、タウンミーティングのワークショップの中で積極的にグループ発表を行った例もある。きっかけがない学生に対して背中を押すことの大切さを実感している。



【案内チラシ】

#### D) Zero-Journey

##### ・趣旨

金沢市立海みらい図書館において、市民を対象として学生による文化・芸術の発信を通じて、市民と学生の交流を図るとともに、学芸に秀でる学生に舞台を提供することで、学生の文化活動を支援する。

それと同時に、海みらい図書館が、市民と学生が触れ合うことのできる文化交流の拠点のひとつとして機能することを旨とする。

##### ・実施状況

<平成 26 年度>

日程	内容	実施団体	入場者
10月5日(日) 15:00~16:00	朗読会 「あの頃を思い出す 重松清」	金沢大学あざみ色朗 読隊	約 50 人
11月23日(日) 第1回 13:30~14:00 第2回 15:00~15:30	コンサート&読み聞かせ 「ピアノで楽しむ物語の世界」	金沢大学ピアノの会	約 200 人

<平成 27 年度>

日程	内容	実施団体	入場者
6月13日(土) 15:00~16:00	朗読会 「恋愛朗読会 井上ひさし」	金沢大学あざみ色朗 読隊	約 30 人
10月11日(日) 第1回 13:30~14:00 第2回 15:00~15:30	コンサート 「マンドリンで楽しむ名作ア ニメの世界」	金沢大学マンドリン クラブ	約 200 人
11月1日(日) 14:00~15:00	古典の日 「秋の和の三重奏」	金沢大学竹糸会	約 90 人

##### ・評価

平成 26 年度から開始した協働事業であり、金沢市西部、海側に位置する海みらい図書館にて、金沢大学の学生と地域の人が定期的に交流できる場がつけられたこと自体評価できる。

2 年間で実施した 5 つのイベントでは、朗読会は 50 人程度、コンサートでは 200 人程度の入場者があり、市民の関心が高いことが窺える。また、古典の日に開催した「秋の和の三重奏」では、普段あまり馴染みのない邦楽を身近に感じてもらうよう創意工夫を行ったこともあり、入場者に対して実施したアンケートのうち、90%近くが「たいへんよかった」「よかった」と評価し、「古典に親しみを持った」「新鮮だった」との意見が寄せられた。このことから、イベントを企画する学生にとって、市民のニーズを組んだ企画の検討が必要となるため、教育的効果は高いと言える。



## E) 金沢大学放送局 (web-KURS)

### ・趣旨

平成 17 年に、学生のインターンシップによる、大学の社会教育の一環として、社会貢献室に、金沢大学放送局「web-KURS (ウェブクラス)」が設置された。現在は地域連携推進センターにおいて、学生による地域貢献を実施するプロジェクト組織として、教職員に指導を受けながら、事業を実施している。

### ・実施状況

#### <放送活動>

定期的に、大学食堂における学内放送や、エフエム石川での大学広報番組「金沢大学 Radio Campus」のパーソナリティーを実施。

平成 25 年度には、第 30 回 NHK 全国大学放送コンテスト決勝進出。

#### <あざみ色朗読隊>

平成 25 年 5 月	文学な 10 日間	金沢大学サテライト・プラザ
平成 25 年 9 月	あざみ色夏の終わりの朗読会 (大人編/子ども編)	金沢大学附属病院
平成 26 年 10 月	あの頃を思い出す重松清	金沢海みらい図書館
平成 27 年 2 月	アラスカの詩めぐる季節の物語	金沢医療センター
平成 27 年 6 月	恋愛朗読会ー井上ひさしー	金沢海みらい図書館

#### <堅町商店街との協働事業>

毎年 10 月 金沢大学ストリートキャンパス in タテマチを開催。

平成 26 年 商店街内にラジオ放送局 (まちなか HotStation) を開設。  
(金沢市の「学都金沢」地域づくり活動支援事業の助成)

#### <その他>

- ・平成 26 年 3 月 珠洲市民を対象とし iPad 講習会を実施。
- ・平成 26 年 12 月 THE 禅の市に参画。
- ・平成 27 年 7 月 域学連携協定を結んでいる木島平村糠千区のインターンシップお試しツアーに同行取材。
- ・平成 27 年 12 月 「食と遊びを通じて楽しむ金沢のお正月」イベントの運営

### ・評価

設立当初は学内放送における情報提供に留まっていたが、「金沢大学 Radio Campus」の番組の放送や、ホームカミングディでの司会、学生チャレンジ報告会の進行等、大学の広報や行事の一翼を担う存在となった。また平成 24 年に結成したあざみ色朗読隊は、朗読の技術を磨くとともに、病院や商店街、金沢海みらい図書館等、地域での活動の場を拡げている。

地域連携活動としては、たてまち商店街活性化 (ストリートキャンパス、まちなか HotStation)、珠洲市での iPad 講習会等、センターが推進する事業に参画し、学生視点による情報発信を積極的に行うことができた。



【活動の様子】

### 3-2 地域活性化・地域課題の解決に向けた事業

#### A) タウンミーティング

##### ・趣旨

金沢大学では、地域との対話を通じて大学が地域に果たす役割を考え、地域のニーズを大学運営に活かすことを目的に、石川県内各地で「タウンミーティング」を開催している。平成14年度の輪島市を手始めに加賀市、鶴来町（現白山市）、珠洲市、能登町、羽咋市、穴水町、内灘町、能美市、七尾市、小松市、野々市市、金沢市、白山ろく（白山市）、志賀町で開催された。

##### ・実施状況

金沢市 平成26年2月15日（土）

「地域と大学の連携による、世界の「交流拠点都市金沢」の実現」と題して、金沢学生のまち市民交流館交流ホールにて実施した。参加者約70人

白山ろく（白山市） 平成27年2月7日（土）

「白山ろくの新たな暮らし ～ 地域の魅力の再発見をととした地方創生～」と題して、吉野谷公民館にて実施した。参加者約50人

志賀町 平成28年2月14日（日）

「地域資源を活用した地方創生」と題して、富来活性化センターにて実施した。参加者約60人

##### ・評価

タウンミーティングは、市民と直接意見交換できる場として活用され、様々な実地的活動や研究に結びついている。また、いずれの地域においても、学生による地域参画について高い関心があり、地域連携推進センターでは「学生による地域連携活動」をより一層充実させているところであり、地域ニーズを運営に反映させていると評価できる。その一方で、単回実施のため、議論を深めることができず、タウンミーティングを起点としたワークショップを複数回実施することにより、地域のニーズをより詳細に把握することが今後必要である。



【 in 金沢のチラシ】



【 in 白山ろくのチラシ】



【 in 志賀町のチラシ】

## B) 域学連携協定に基づく事業

### ・趣旨

金沢大学地域連携推進センターと長野県木島平村糠千区は、地域創造学類「まちづくりインターンシップ」での学生受入（平成21年8月～）をきっかけとして連携が始まった。平成25年4月には地域連携推進センターと木島平村糠千区（センター長と区長）との間で、域学連携協定を締結し、集落づくりでの課題解決に向けて連携を強化した。

なお、この域学連携協定の期間は3年間であったが、双方で協議の上、締結者を糠千区長から村長に変更して本協定を継続することが予定されている。

### ・実施状況

#### <平成25年度>

- ・域学連携協定締結式：平成25年4月2日 木島平村
- ・第1回域学連携協議会：平成25年6月3日 金沢大学
- ・第2回域学連携協議会：平成25年9月19日 金沢大学
- ・第3回域学連携協議会：平成25年12月20日 金沢大学
  
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校夏季講座：平成25年8月7日～9月2日  
参加学生 10人
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校 秋季講座：平成25年11月23日～24日  
「道祖神づくりボランティアと集落カフェ」 参加学生 1人
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校 冬季講座：平成26年2月8日～10日  
「雪かきボランティアと山村の冬の暮らし」 参加学生 14人

#### <平成26年度>

- ・第4回域学連携協議会：平成26年4月3日 木島平村
- ・第5回域学連携協議会：平成26年5月29日 金沢大学
- ・第6回域学連携協議会：平成26年6月21日 木島平村
- ・第7回域学連携協議会：平成27年3月23日 金沢大学
  
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校 夏季講座：平成26年8月7日～12日  
参加学生 6人
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校 秋季講座：平成26年11月23日～24日  
「糠千区」道祖神作りボランティアと集落カフェ」 参加申込学生 7人  
※前日に発生した長野県北部地震の影響を鑑み中止
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校 冬季講座：平成27年2月21日～22日  
「冬の農村集落を体感しよう！」 参加学生 8人

#### <平成27年度>

- ・第8回域学連携協議会：平成27年4月24日 木島平村
- ・第9回域学連携協議会：平成27年8月6日 金沢大学
- ・第10回域学連携協議会：平成27年11月19日 木島平村
- ・第11回域学連携協議会：平成28年2月8日 金沢大学
  
- ・木島平村「農村文明塾」事務局スタッフによる、これまでの取組とその成果に関する講義：平成27年5月15日  
参加学生 地域創造学類1年生ほか約130人

- ・長野県木島平村糠千集落 お試しツアー：平成 27 年 7 月 4 日～5 日  
参加学生 26 人
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校 夏季講座：平成 27 年 8 月 26 日～30 日  
「空き家改修を通じて地域づくりを学ぼう！」 参加学生 5 人
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校 秋季講座：平成 27 年 11 月 14 日～15 日  
「道祖神づくりボランティアと集落カフェ」 参加学生 7 人
- ・木島平村民と学生とのそば交流会：平成 28 年 2 月 8 日 金沢大学  
参加者：学生 27 人，教職員 11 人 木島平村 14 人
- ・農村版大学コンソーシアム木島平校 冬季講座：平成 28 年 2 月 19 日～21 日  
「冬の農山村を体感しよう！」 参加学生 6 人

・評価

木島平村は、総務省の域学連携の取組みを積極的に展開し、平成 21 年度より、農耕生活における歴史、文化、地域自治機能を高めた農村の自然共生型持続モデル「農村文明塾」を立ち上げ、大学との連携活動を推進している（平成 26 年度ふるさとづくり大賞優秀賞・総務大臣賞受賞）。

木島平村が主催する夏季及び冬季のインターンシップ等（小規模なプログラム含む）に地域創造学類の学生を中心に 157 人の学生が参加している（平成 23 年度～平成 27 年度）。

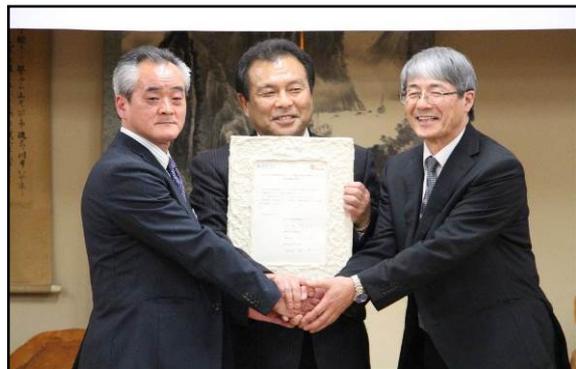
さらに平成 25 年度から、地域創造学類「まちづくりインターンシップ」参加学生を中心とした学生有志により、金大祭において木島平村糠千区民とそばの共同出店をするなど、継続的な交流が行われている。

平成 27 年度からは糠千区の古民家再生による学生の活用促進プロジェクトを開始するなど、域学連携の新たな広がりを見せている。

なお、地域創造学類の卒業生（馬場千遥氏 H25 年度卒）が木島平教育委員会 農村文明塾事務局（地域おこし協力隊）に就業し、学生の地域参画による地域活性化に尽力しており、地域創造学類のモデル人材となっている。



【平成 25 年度 協定締結式】



【平成 25 年度 協定締結式】



【平成 27 年度 お試しツアー】



【平成 27 年度 学生とのそば交流会】

### C) 能登の祭り支援プロジェクト

#### ・趣旨

奥能登地域の伝統文化であるキリコ祭りのワークショップや体験プログラムの開発を通して、祭りの支援が必要な集落へ、祭り体験を教育の場や研究として活用したい全国の大学の教員・研究者と学生・留学生がエントリーできるような仕組みづくりと、自治体や専門家による連携と情報共有のためのネットワーク構築に取り組む。能登キャンパス構想推進協議会による受託事業とも連携して、学生や若者が能登半島の地域活動に参加するチャンスを広げながら、能登の地域活性化と文化継承を目指す。

#### ・実施状況

##### <平成 25 年度>

- ・ 輪島市名舟町 名舟大祭 : 7月31日(水)～8月1日(木)
- ・ 七尾市中島町鉤打 新宮納涼祭 : 8月14日(水)～15日(木)
- ・ 七尾市中島町鉤打 杵旗祭り : 9月22日(日)～23日(月・祝)
- ・ 穴水町岩車 奈古司神社秋祭り : 9月22日(日)～23日(月・祝)
- ・ 七尾市中島町豊川 六保祭 : 9月28日(土)

##### <平成 26 年度>

- ・ 能登町松波 松波人形キリコ祭り : 7月26日(土)～27日(日)
- ・ 七尾市中島町鉤打 新宮納涼祭 : 8月14日(木)～15日(金)
- ・ 穴水町沖波 沖波大漁祭り : 8月14日(木)～15日(金)
- ・ 輪島市門前 黒島天領祭 : 8月17日(日)～18日(月)
- ・ 七尾市中島町鉤打 杵旗祭り : 9月22日(月)～23日(火・祝)
- ・ 七尾市中島町豊川 六保祭 : 9月27日(土)
- ・ 珠洲市宝立鶴島 珠洲デカ曳山まつり : 10月11日(土)～12日(日)

##### <平成 27 年度>

- ・ 能登町矢波 矢波諏訪祭 : 8月15日(土)～16日(日)
- ・ 輪島市門前 黒島天領祭 : 8月17日(月)～18日(火)
- ・ 珠洲市馬縹町 馬縹の秋祭り : 9月13日(火)
- ・ 七尾市中島町鉤打 杵旗祭り : 9月22日(火・休日)～23日(水・祝)
- ・ 七尾市中島町豊川 六保祭 : 9月26日(土)

#### ・評価

平成 23 年度から「祭り支援プロジェクト」として統一かつ継続的に実施していることから、祭り支援の認知が高まり、祭りの担い手不足や地域継承の危機という共通の課題に悩む受入れ地域や自治体、有識者のつながりが構築され、大学を中心とした情報、人脈のネットワークが構築されている。

地域への波及効果としては、観光化された祭りとは対照的に人手不足で悩む集落の人だけで実施する祭りに関して、学生が実施の主力メンバーとして活動したことにより、伝統文化を継承する祭りを実施できたことがある。

学生への教育的効果としては、学生が地域に出て、住民との直接的な交流と貢献活動を通じ、地域住民から大変感謝されたことである。そうした学生の成功体験は今後の学生生活の活性化に繋がっている。

平成27年4月に、「灯(あか)り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～」(七尾市, 輪島市, 珠洲市, 志賀町, 穴水町, 能登町)が日本遺産に認定されたことから, より一層の活動支援を実施する。また, 学生の教育的効果を高めるため, 事前学習も取り入れる予定である。



【能登の祭り支援プロジェクト 祭り参加の様子】

#### D) まちなか活性化プロジェクト

##### ・趣旨

金沢大学が金沢城内から角間に移転して四半世紀近く経過し、金沢の中心街において学生活動を目にする機会が減るとともに、学生のまちなかへの愛着も失われつつある。まちなかでは若者が減少し店主は活性化に苦慮している。そこで、学生と商店街が協働し、堅町商店街を舞台に、学生がまちなかの魅力を再発見できる機会を考え、提供し、学生自身地域の魅力を市民に発信することで、人口減少下の地方都市で、地域市民と学生が地域活性化をキーワードにした新しいまちなかでの「祭り」の在り方を提案し学生による地域活性化を実践する。

##### ・実施状況

<金沢大学ストリートキャンパス in タテマチ>

第3回金沢大学ストリートキャンパス in タテマチ：平成 25 年 10 月 12 日（土）

第4回金沢大学ストリートキャンパス in タテマチ：平成 26 年 10 月 18 日（土）

第5回金沢大学ストリートキャンパス in タテマチ：平成 27 年 10 月 17 日（土）

<金沢大学まちなか Hot-Station> （「学都金沢」地域づくり活動事業」の助成）

堅町商店街の協力を得て、「金沢大学まちなか Hot-Station」を設置。

12 月 13 日（土）、2 月 14 日（土）の 2 回、ラジオ番組の製作・放送。

##### ・評価

平成 23 年度から始まったストリートキャンパス in タテマチについては、学生の自主性を尊重し、学生主体により企画した地域活性化の内容を地域にプレゼンし、事業を実施している。毎年、石川県酒蔵組合連合会とも連携して、日本酒離れする若年層に地酒をアピールするため、野外に日本酒 BAR を設置するなど、学生が地域の魅力を分析し、学生が地域に提供できるパフォーマンスを選別して実施すること高い評価を得ている。また、平成 25 年度には、同時に開催された堅町商店街振興組合設立 50 周年記念イベントにも協働で取り組んだ。

平成 26 年度に堅町商店街の一角に開設した「まちなか放送局」では、12 月と 2 月の 2 回、若者目線で取材した商店街の情報を盛り込み、商店街の魅力をアピールした。併せて、インターネット上に「まちなか Hot-Station」なるサイトを作成し、インターネットを活用したコンテンツの配信を実施した。スタジオ設備の故障の関係もあり事業は中断されたが、イベントの開催だけでなく定期的な情報発信を行うこの取り組みは評価できる。



【ストリートキャンパス in タテマチの様子】



【まちなか Hot-Station 放送の様子】

## E) 地域交流プロジェクト

### ① 若年層を対象とした能登の地域資源の発見と観光誘客について (平成 25 年度 大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業)

#### ・趣旨

輪島における地域基盤と、外部人材活用した地域交流ノウハウを最大限に活用しながら、若年層を対象として輪島市を中心とした能登の地域資源の発見と観光誘客について、学生による地域資源の発見や提案し最終的に外部人材（旅行会社）と連携し観光客を誘客につなげる。

#### ・実施状況

JR 西日本の取り組みである「北陸カレッジ（石川）」と連携し、学生 6 名が旅行プランの企画提案を行った。

体験実習：平成 25 年 8 月 26 日～8 月 29 日

金沢、能登での体験学習プログラムを通して、各エリアの魅力や体験した旅の素晴らしさについて facebook で情報発信を実施。

中間報告会：平成 25 年 10 月 19 日（土） 立命館大学

各チームが企画した旅行プランとプロモーションを提案。

成果報告会：平成 25 年 11 月 25 日（月） ホテルグランヴィア大阪

中間報告会でのフィードバックを反映し報告。

大学・地域連携アクトイブフォーラム：平成 26 年 3 月 1 日（土） 金沢エクセルホテル東急  
能登の地域資源発見と観光誘客プランの策定について報告。

#### ・評価

当該事業の実施により、輪島市を中心とした能登地区の複数のエリアのツーリズムを学生の視点でじっくりと検討し、JR 西日本や石川県並びに JTB、近畿日本ツーリストなどの旅行代理店の担当者により学生のプランが商品として成立するかどうか検討されていることは、学生への教育的効果のみならず、今後の誘客に繋がる可能性を考慮すると、微力ながらも地域活性化に繋がっていると評価できると考える。



【能登の観光パンフレット】

## ②地域資源マップづくりからはじめる地域マネジメント計画の基礎的検討

ー小松市里山里海構想を対象に

(平成 25 年度 大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業)

### ・趣旨

小松市の里山里海に関する多様な地域資源（人的資源，歴史文化資源，環境資源，生活文化資源等）の掘り起こし・再評価による地域資源マップづくりや，地域協働による里山里海の活用事業の試行をとおして，小松市の里山里海活用構想が内発的・持続的な地域づくりとして展開を図るための基盤づくり（地域資源の再構築，地域協働の体制整備，地域住民の意識啓発，地域協働による新規事業企画等）を行う。

### ・実施状況

小松市における里山事業の取り組み支援概況を踏まえ，小松市環境王国小松推進本部との調整により，これからの支援がより一層期待される西尾地区を調査対象地区として選定した。空き家等の維持管理状況調査票を地域住民とともに設計し，調査票を使用して調査を実施。その調査結果を踏まえ，若手有志とともに空き家を活用した今後の地域活動方策についてのワークショップを開催し，これにより，住民から様々なアイデアが寄せられた。また，これら一連の調査研究活動について，学生が中心となって里山情報を発信するフリーマガジンを活用し，情報発信に努めた。

### ・評価

数年間のビジョンを示しながら展開している当調査研究活動は，地域からの信頼を徐々に得つつあり，今後の持続的な展開が期待されている。地域住民等からも，調査研究活動や学生等が参画した地域活動支援への期待は大きく，空き家資源活用方策の検討に加え，既存の地域行事への参加等，地域活動での協働体制の構築が期待されている。

## ③里山の地域資源（空き家等）を活用した住民主体の地域マネジメント計画の検討

(平成 26 年度 大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業)

### ・趣旨

小松市西尾地区で地域問題となっている空き家等を地域資源とみなし，それらの地域資源の掘り起こしとその活用を通して，内発的・自律的な地域づくりを展開するための住民主体のまちづくり計画の策定と組織づくりを支援する。

### ・実施状況

小松市西尾地区の地域資源の概況についてアンケートを実施した。また，西尾地区の若手有志とのワークショップや，年配の世代を対象とした聞き取り調査を実施し，世代間での空き家への認識の違いを確認した。

### ・評価

西尾地区全地区における空き家，空き地状況調査と空き家・空き地データベースの整備の進展に貢献した。また，地域の祭りの運営に携わることによって親密な関係を築くだけでなく，寄り合いへの参加，聞き取り調査を行うことで，住民が自ら当問題について考えてもらう機会を提供した。30代で若者と呼ばれるほど過疎化が進む地域にとって，学生の意見は新鮮であり，地域住民からの期待は大きい。

#### ④THE 禅の市活動支援

(平成 26 能登キャンパス構想推進協議会 受託事業)

- ・趣旨

毎月第3週末に輪島市門前町總持寺通りで開催される地域イベントである「THE 禅の市」への学生参加を通じて、地域の活性化に貢献する。

- ・実施状況

平成 26 年 6 月～10 月：THE 禅の市の見学・調査（学生有志による仮出店）

平成 26 年 12 月：金沢大学の学生団体による THE 禅の市の企画・出店

- ・評価

「THE 禅の市」という地域イベントを通じて、地域住民と学生が目的の達成に向けて交流しており、学生における教育的効果と地域の活性化が両立できている事例であると評価できる。



【THE 禅の市 出店の様子】

### 3-3 地域資源を活用した事業

#### A) 「能登里山里海マイスター」育成プログラム

- ・名称 「能登里山里海マイスター」育成プログラム
- ・期間 平成24年10月1日～平成27年9月30日
- ・資金 能登キャンパス構想推進協議会 受託事業（平成25年度まで）  
センター教育施設事業費（平成26年度以降）

#### ・趣旨

能登半島の輪島市、珠洲市、穴水町、能登町を拠点に、「里山里海の豊かな価値を評価し、地域課題に取り組むマインドを持った人材」「自然と共生する持続可能な能登の社会モデルを世界に発信する人材」を養成するために、1年間の講習で、20人ずつ、3年間で60人の地域リーダーを養成する事業を行う。

#### ・評価

能登里山マイスター養成プログラムの成果を活かしながら、これからも持続的に地域再生の人材を養成するため、大学と地域が費用を拠出して、新しい枠組みで人材養成プログラムを企画、立案及び実施した。第1期生22名、第2期生23名、第3期生21人の合計66人を地域リーダーとして修了させることができた。また、珠洲市の大学連携事業が第3回プラチナ大賞（大賞・総務大臣賞）を受賞するなど、このプログラムの内容が高い評価と期待を受けると同時に、地域ニーズに合致していると評価できる。加えて、JICA 草の根技術協力事業「世界農業遺産（GIAHS）「イフガオの棚田」の持続的発展のための人材養成プログラムの構築支援事業」が平成26年1月にスタートするなど、他地域への展開が実施されている。

#### B) 能登里山里海研究部門

- ・名称 能登里山里海研究部門
- ・期間 平成26年10月1日～平成30年3月31日
- ・資金 珠洲市寄附金

#### ・趣旨

能登半島における里山里海の保全と活用に係る研究を行い、里山里海の活用による地域活性化に寄与することを目的に研究部門を設置した。地域活性化へ向けた21世紀型の里山里海の活用方法の研究・開発や幅広い世代を対象とした里山里海の理解促進などにおける研究を行う。

#### ・評価

「能登里山マイスター」養成プログラム（平成19年度～平成23年度）を契機として、珠洲市で、各種のプロジェクトを金沢大学能登学舎にて実施してきた。本研究部門の設置及び実施により、能登半島における里山里海の環境保全と21世紀型の活用に係る研究を核とした、珠洲市における研究の拠点化を推進していると評価できる。

### C) 里山里海再生学の構築

- ・名称 持続可能な地域発展をめざす「里山里海再生学」の構築  
～能登半島から世界に向けた発信～
- ・期間 平成22年4月1日～平成27年3月31日
- ・資金 文部科学省 運営費交付金 特別経費

- ・趣旨

物質循環と生物多様性の観点から、能登半島において、能登の里山・里海の歴史の変遷の解明、能登への地球温暖化や環日本海域からの越境飛来汚染物質の影響解析、里山と里海の連関（つながり具合、相互の影響）の解析などを行うとともに、臨地主義、文理融合型の研究を通じて、持続可能性や地域再生に向けた高度の知識・技能を備えた人材（大学院）や幅広い視点を有する人材（学部）を育成する。また、角間の里山ゾーンを活用して、全学的な教育カリキュラムの開発、実施により、すべての学生が持続可能・低炭素化社会に向けた知識と教養を身につけることを目指す。

- ・評価

金沢大学里山里海プロジェクト『持続可能な地域発展をめざす「里山里海再生学」の構築』総括ワークショップ（平成27年2月13日実施）において、研究成果を公表した。また、人材（学部生対象）育成においては、「里山体験実習 in 能登半島」及び「里海体験実習 in 能登半島」を能登半島各地を周遊する形で実施し、金沢市にある角間キャンパス内の里山ゾーンでは、「里山体験実習 in 角間（生活体験）」と「里山体験実習 in 角間（生活体験エコロジー）」を集中講義として実施しており、里山・里海の現状を直に触れ、歴史の変遷と現状と課題を考える機会を提供することができた。これらの成果は、「能登里山里海マイスター育成プログラム」の経験と成果とも相互補完することで、世界農業遺産と世界文化遺産に認定されているフィリピンのイフガオ棚田持続発展のための人材養成事業の構築支援「イフガオ里山マイスター養成プログラム」（略称）に繋がり、「里山里海再生学」を構築し、能登半島から世界に向けて発信することが達成できたと評価できる。



【角間キャンパスにおける里山ゾーン】

#### D) 角間里山農園プロジェクト

- ・名称 角間里山農園活動及び里山農園普及活動
- ・期間 平成 25 年 8 月 29 日～平成 27 年 3 月 31 日
- ・資金 農林水産省 「農」のある暮らしづくり整備交付金

##### ・趣旨

大学キャンパス内の荒廃した里山の「農」の再生を図る。「農」の再生にあたっては、その基盤となる里山の農地環境（棚田、畑など）の再生整備を図るとともに、大学のキャンパス内にある里山という特徴を活かし、農業体験活動はもとより、教育研究利用、新規事業創出、社会貢献活動など、多様な活動を通じて里山の新しい「農」のあり方を提示する。また、市街地に隣接する里山環境をいかし、地域の多様な主体（学校、NPO、企業など）と連携した「農」の活動プログラムの構築を図った。加えて、こうした活動を持続発展的に展開させるために、里山農園での体験的な農業活動に加え、より高度な農園活動の展開を図るための諸事業を組み合わせる。

##### ・評価

里山農園活動として、平成 25 年 10 月～11 月に里山子ども農園活動、平成 25 年 11 月～平成 26 年 3 月、7 月～平成 27 年 2 月に里山 CSR 農園活動、平成 26 年 1 月～2 月、7 月～12 月に NPO 連携農園活動、平成 26 年 7 月～12 月に里山子ども・若者農園活動、平成 26 年 7 月～12 月に里山福祉活動をおこなった。また、里山農園普及啓発活動として、平成 25 年 11 月、平成 26 年 11 月に「里山市」の開催、平成 25 年 9 月～12 月、平成 26 年 11 月に竹チップ生成活動などによる里山資源活用事業、平成 25 年 12 月～平成 26 年 2 月、平成 27 年 2 月に里山の「農」に関する学習会を開催した。大学キャンパスの里山ゾーンにおいて既存の農園や新規に再生した棚田等を活用して里山農園活動および里山農園普及啓発活動をおこなうことで、地域と連携した活動の実践や推進体制の構築を図ることができ、里山をキャンパス内に有するという金沢大学の特徴を活かした地域連携事業として評価できる。

#### E) 角間里山ゼミ

- ・名称 FGF 角間里山ゼミによる人材育成と里山整備活用の連携
- ・期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
- ・資金 公益信託 富士フィルム・グリーンファンド

##### ・趣旨

角間キャンパスの里山ゾーンをフィールドにした実践的プログラムを実施し、強い問題意識、広い視野、具体的実践を目指す人材、21 世紀における里山の意味を考え、里山の自然と文化、生物多様性、資源の保全と活用、自然共生・持続型社会の実現を担う人材の養成を目指す。

以上の人材養成事業を行いつつ、里山ゾーンの保全、管理、利活用に向けてモデル事業を展開する。

##### ・評価

定期的にゼミを開催することで、受講生の高い課題設定レベルに応えることができ、人材育成において想定以上の成果を出すことができた。また、本事業の実施により、里山ゾーンの保全、管理、利活用に向けたネットワークが強化されており、地域連携事業として評価できる。

#### 4 センターが協力・協働する連携事業

##### 4-1 能登オペレーティング・ユニット事業

###### ・趣旨

金沢大学は、能登半島において多岐にわたる教育研究活動を実施してきた。従来、本学の能登半島における教育研究拠点は、九十九湾岸にある「臨海実験施設」(現・環日本海域環境研究センター附属施設)が中心だったが、平成18年から、里山里海プロジェクトによる、能登地区を拠点とした教育、研究プロジェクトが大きな広がりを見せた。これら教育、研究、地域連携事業を、さらに持続的に発展させるための運営組織と拠点施設の設立が求められたが、それらの要求に対応するため、金沢大学は、平成22年10月に能登オペレーティング・ユニットを設置した。

地域連携推進センターは、ユニットの運営に地域連携推進センターの特任教授をディレクターとして積極的に協力させている。

金沢大学は、能登学舎を一つの拠点として能登半島における本学の教育研究活動と、自治体や地域社会の連携について図りながら、さらに高度展開するために、能登に総合・多角的な教育研究拠点を形成し、先進的かつ独創的な活動を推進しながら地域に貢献することを目指す。

###### ・評価

地域連携推進センター 宇野文夫特任教授が、能登オペレーティング・ユニットのディレクターに就任し、珠洲市の能登学舎や七尾市の中島研究拠点で実施しているプロジェクト(「能登里山里海マイスター」育成プログラムなど)について、地域や自治体と連携を密接にしながら実施した。また、平成23年には、能登オペレーティング・ユニットの活動をサポートする目的で、石川県、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町が協力して、能登キャンパス推進構想協議会が設立され、当該協議会と連携協力しながら、能登における大学機能の充実が図られている。

##### 4-2 角間里山本部事業

###### ・趣旨

本学角間キャンパス内の「里山ゾーン」の保全と21世紀型の活用に向けて、管理及び運営方策を立案するとともに、その活用に向けた指導及び助言を行い、持続可能な社会の礎となる先駆的人材を養成するために、里山を利用した先進的かつ独創的な教育及び研究の推進を目的として、金沢大学は、平成22年8月に角間里山本部を設置した。地域連携推進センターは、角間里山本部における連携部門において中核的な役割を担い、里山ゾーンの管理に協力する地域住民をサポートするため、専任の准教授を角間里山本部幹事長代理及び角間里山本部における地域連携部門の長として兼務させるなど、積極的に運営に協力する。

###### ・評価

地域連携推進センター 中村浩二特任教授が里山本部幹事長として、また、地域連携推進センター地域連携部門長 松下重雄准教授が、角間里山本部の統括ディレクターとして、里山本部の運営に協力しながら、角間の里山を活用した教育、研究及び連携活動を推進してきた。

角間里山本部と地域連携推進センターが相互協力することで、「FGF 角間里山ゼミによる人材育成と里山整備活用の連携」(富士フィルム・グリーンファンド：平成25年4月1日～平成28年3月31日)や、「角間里山農園活動及び里山農園普及活動」(農林水産省「農」のある暮らしづくり整備交付金：平成25年8月29日～平成27年3月31日)のプロジェクトを獲得、実施することができた。

#### 4-3 地（知）の拠点整備事業

##### ・趣旨

金沢大学は、地域が抱える多様で複雑な課題の現実的で持続可能な解決に向け、地域社会の担い手として活躍することができる人材の育成並びに学内資源を有機的に活用したCOCたるべく、1)地域の感性を備え、地域のリーダーとなる能力を備えた人材育成、2)研究者とステークホルダーの協働による地域を志向した研究の推進と成果の社会還元、3)地域社会が求める多様な「学び」の提供を実施する。そのため、学士課程全新入生を対象とした地域志向の必修科目「地域概論」の新設・導入、学士課程共通教育特設プログラム「総合地域論」の新設・導入、学内資源のネットワーク化と課題解決に向けた地域との協働による研究プロジェクトの推進、社会人の「学び」の場を地域へ提供するための教育拠点の整備に取り組む。これらの取り組みを通して、大学と地域を繋ぐCOCとしての役割を果たすとともに、その機能の充実を図る。

地域連携推進センターは、3)地域社会が求める多様な「学び」の提供に向けて、社会人の「学び」の場を地域へ提供するための教育拠点の整備を主として担っている。

##### ・評価

平成26年3月に、遠隔地教育システムを導入し、珠洲市及び小松市でも公開講座が受講できる体制を整えた。このシステムを通じて、公開講座、ミニ講演及びシンポジウムなど配信し、平成26年度と平成27年度を合わせて、小松で延べ200人以上、珠洲で延べ300人以上の参加者があった。さらにインターネットで受講できる「e」講座用教材を26講座開発して、オンデマンドで受講できる体制を構築した。また、公開「e」講座をWEB公開するとともに、地域の魅力を再発見するコンテンツを充実させることができた。大学に直接行かなくても学ぶ体制が整えられ、多様な「学び」の提供ができていると評価できる。

#### 4-4 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業

##### ・趣旨

金沢大学は、自治体との先駆的連携枠組みを活用し、夢と志を持って石川県に定住し、地域（金沢、加賀、能登）リーダーとなる人材養成を実施する。これは、学生が人生において地方に住む動機付けに焦点を当て、学生が当該地域（石川県）で生きていく意義に考えや思いを巡らせ結論を出すプロセス（思考）を通じ、学生が夢と志を持って生き抜く決意を見出すため、次の3つの柱からなる「地域思考型教育」を実施し、地域を担うリーダーを養成する。

- 1) 地域創生概論：石川県内全学生を対象にしたICT教育カリキュラムの開発・実施
- 2) 共創インターンシップ：石川県に住む意義を明確にする学生ライフキャリアデザイン開発と連携した企業インターンシップの実施
- 3) 夢のある起業モデル構築：各大学の学生と自治体が連携した若者に夢のある起業モデルの場の構築

以上により、石川県をフィールドにして、夢のある若者の地域定着のモデルを目指す。地域連携推進センターは、本事業の推進コーディネーターに地域連携推進センターの特任教授を据え、地方公共団体や地元企業との調整機能などを担っている。

##### ・評価

平成28年1月20日に、本事業の実施に向けた協定式、協議会発足、キックオフシンポジウムを地域連携推進センターのスタッフを中心に実施した。また、地域連携推進センター 宇野文夫特任教授を本事業の推進コーディネーターとして、石川県をはじめ、石川県内の全自治体とも連携し、オールいしかわ体制での事業運営を進めており、これまでの地域連携推進センターの連携実績を活かした、スムーズなスタートが切れたと評価できる。

#### 4-5 地域連携シンポジウム

##### ・趣旨

学生の地域への関与の可能性や学生と地域との交流を通じた地域活性化の可能性を探ることを目的に、具体的な地域事例を題材にシンポジウムを開催する。

アニメやコスプレ等日本の文化・コンテンツによる地域活性化の意義や効果をさぐる。

##### ・実施状況

<平成 25 年度>

○第二回シンポジウム (参加人数 40 人)

リアル・ワールド・コンテンツミーティング

世界に広がるコスプレ文化と地域活性化を考える

～ What's Cosplay Let's Cosplay～

日 時 平成 26 年 3 月 29 日 (土) (参加人数 160 人)

場 所 石川県政記念館 しいのき迎賓館 3F セミナールーム B

事例報告 (20 分×4 : 80 分)

日本コスプレ委員会	副委員長	箱田 貴子
大阪市住之江区	区長	高橋 英樹
大須商店街連盟	会長	今井 富雄
金沢大学留学生		adityo Bagus Prabowo
		Balt Jekaterina
		Tan Li Yun Evelyn

パネルディスカッション

モデレーター 金沢大学地域創造学類教授 神谷 浩夫

パネリスト

大阪市住之江	区長	高橋 英樹
大須商店街連盟	会長	今井 富雄
財団法人金沢コンベンションビューロー	GM	浅田 和幸
日本コスプレ委員会	副委員長	箱田 貴子
広島国際学院大学 情報文化学部	准教授	谷口 重徳

※3 月 30 日 (日) 日本コスプレ委員会主催コスプレ撮影会を同時開催  
(参加人数 160 人)

<平成 26 年度>

○アニメ「花咲くいろは」アニソン・コンサート&聖地巡礼ツアー

(参加人数 21 人)

平成 26 年 10 月 11 日 (土)

ジョイントフェスティバル in 北陸

金沢大学体育館

ぼんぼり祭り

湯涌温泉

平成 26 年 10 月 12 日 (日)

聖地巡礼ツアー

富山県南砺市, 能登鉄道西岸駅

<平成 27 年度>

○コスプレ地域交流会 (参加人数 30 人)

平成 27 年 9 月 22 日 (火・祝)

サイエンスヒルズこまつ

・評価

平成 25 年度に実施した「第二回リアルワールドコンテンツミーティング」では、コスプレによるグローバル化と地域活性化について、名古屋市の商店街や大阪の自治体における事例報告も交え、学術的に議論を行った。また、翌日に行った日本コスプレ委員会主催のコスプレ撮影会では、雨にも関わらず関西圏も含めて約 160 名が集った。このシンポジウムをきっかけに小松にある自動車博物館でのコスプレ撮影会が実現。参加人数は 100 人に及び、コスプレが地域活性化への影響が大きいことがわかる。

また、平成 26 年度に実施したアニメ「花咲くいろは」アニソン・コンサート&聖地巡礼ツアーでは、ポップカルチャー体験とツーリズムを通して、留学生の視点から北陸のコンテンツ（アニメと地域）について SNS により国内外に情報発信を試みた。

これらにより、若者による地域活性化への参画を支援することができ、地域連携部門のミッションである「学生（若者）の地域現場での活動」を推進する事業として評価できる。



【平成 25 年度 第二回リアル・ワールドコンテンツ・ミーティング のチラシ】



【平成 26 年度アニソン・コンサート&聖地巡礼ツアーの様子】

## 5 センター提供科目

### 5-1 共通教育科目「地域連携学入門」

#### ・趣旨

共通教育・総合科目において、センター提供の授業として、平成23年度より「地域連携学入門—金沢大学の地域参加と協働を考える」を開講し、センター教員等による授業を実施している。授業の内容は、金沢大学の3学域や附属施設で取り組まれる具体的な地域連携プロジェクトの紹介等を通じて、金沢大学の保有する多様な資源を生かした地域参加と協働のあり方、特に人的資源である学生の地域社会への関わり方等、大学と地域の連携について考える機会を設けている。

これにより、学生が①大学の地域連携（地域参加と協働）や学生の社会参加の意義について理解すること、②金沢大学が取り組む多様な分野の地域連携プロジェクトの概要・意義を学ぶこと、③学内の多様な資源を活用した地域社会の課題解決手法や活性化手法について学ぶこと、④地域に対して目を向けながら学際的な視野を広げ、社会参加のきっかけとなることを目指している。

#### ・実施状況

<平成25年度（2013）>

第1回 (4/11)	ガイダンス	松下 重雄 (地域連携推進センター)
第2回 (4/18)	学生・地域交流によるまちづくり	松下 重雄 (地域連携推進センター)
第3回 (4/25)	生涯学習と大学開放	浅野 秀重 (地域連携推進センター)
第4回 (5/9)	留学生がつなぐ地域と大学	八重澤 美知子 (留学生センター)
第5回 (5/16)	芸術文化活動と大学の連携	浅井 暁子 (人間社会研究域学校教育系)
第6回 (5/23)	調査・研究活動をととした地域社会への関わり	吉田 国光 (人間社会研究域学校教育系)
第7回 (5/30)	環境研究をととした地域との連携	長尾 誠也 (環日本海域環境研究センター)
第8回 (6/6)	産官学連携による地域イノベーション	吉國 信雄 (先端科学・イノベーション推進機構)
第9回 (6/13)	まちづくり・地域づくりと大学の連携	高山 純一 (理工研究域環境デザイン学系)
第10回 (6/20)	角間の里山再生と地域連携	佐川 哲也 (人間社会研究域人間科学系)
第11回 (6/27)	農商工連携と里山マイスター	松下 重雄 (地域連携推進センター)
第12回 (7/4)	能登の震災復興活動と大学の連携	北浦 勝 (金沢大学名誉教授)
第13回 (7/11)	地域の保健医療と大学の連携	稲垣 美智子 (医薬保健研究域保健学系)
第14回 (7/18)	能登の地域再生と大学連携	宇野 文夫 (地域連携推進センター)
第15回 (7/25)	能登のコミュニティ再生と大学の連携	神谷 浩夫 (人間社会研究域人間科学系)

第 16 回 (8/1)	<期末レポート>	松下 重雄 (地域連携推進センター)
-----------------	----------	-----------------------

<平成 26 年度 (2014) >

第 1 回 (4/10)	ガイダンス	松下 重雄 (地域連携推進センター)
第 2 回 (4/17)	学生・地域交流によるまちづくり	松下 重雄 (地域連携推進センター)
第 3 回 (4/24)	生涯学習と大学開放	浅野 秀重 (地域連携推進センター)
第 4 回 (5/1)	角間の里山再生と地域連携	佐川 哲也 (人間社会研究域人間科学系)
第 5 回 (5/15)	芸術文化活動と大学の連携	浅井 暁子 (人間社会研究域学校教育系)
第 6 回 (5/22)	留学生がつなぐ地域と大学	八重澤 美知子 (国際機構)
第 7 回 (5/29)	コミュニティ再生と大学の連携	神谷 浩夫 (人間社会研究域人間科学系)
第 8 回 (6/5)	調査・研究活動をととした地域社会への関わり方	吉田 国光 (人間社会研究域学校教育系)
第 9 回 (6/12)	まちづくり・地域づくりと大学の連携	高山 純一 (理工研究域環境デザイン学系)
第 10 回 (6/19)	能登の震災復興活動と大学の連携	北浦 勝 (金沢大学名誉教授)
第 11 回 (6/26)	過疎地域をめぐる政策研究－地域政策研究センターの研究成果より	武田 公子 (人間社会研究域経済学経済学系)
第 12 回 (7/3)	地域の保健医療と大学の連携	稲垣 美智子 (医薬保健研究域保健学系)
第 13 回 (7/10)	環境研究をととした地域との連携	長尾 誠也 (環日本海域環境研究センター)
第 14 回 (7/17)	産学官連携とライフイノベーション	渡辺良成 (先端科学・イノベーション推進機構)
第 15 回 (7/24)	能登の地域再生と大学連携	宇野 文夫 (地域連携推進センター)
第 16 回 (7/31)	<期末レポート>	松下 重雄 (地域連携推進センター)

<平成 27 年度 (2015) >

第 1 回 (4/16)	ガイダンス	浅野 秀重 (地域連携推進センター)
第 2 回 (4/23)	金沢大学の地域連携	横山 壽一 (人間社会研究域経済学経営学系)
第 3 回 (4/30)	生涯学習と大学開放	浅野 秀重 (地域連携推進センター)
第 4 回 (5/14)	調査・研究活動をととした地域社会への関わり方	吉田 国光 (人間社会研究域学校教育系)

第5回 (5/21)	角間の里山再生と地域連携	佐川 哲也 (人間社会研究域人間科学系)
第6回 (5/28)	留学生がつなぐ地域と大学	八重澤 美知子 (国際機構留学生センター)
第7回 (6/4)	過疎地域をめぐる政策研究	佐無田 光 (人間社会研究域経済学経営学系)
第8回 (6/11)	まちづくり・地域づくりと大学の連携	高山 純一 (理工研究域環境デザイン学系)
第9回 (6/18)	環境研究をととした地域との連携	長尾 誠也 (環日本海域環境研究センター)
第10回 (6/25)	能登の震災復興活動と大学の連携	北浦 勝 (金沢大学名誉教授)
第11回 (7/2)	産学官連携とライフイノベーション	渡辺 良成 (先端科学・イノベーション推進機構)
第12回 (7/9)	地域の保健医療と大学の連携	稲垣 美智子 (医薬保健研究域保健学系)
第13回 (7/16)	コミュニティ再生と大学の連携	神谷 浩夫 (人間社会研究域人間科学系)
第14回 (7/23)	能登の地域再生と大学連携	宇野 文夫 (地域連携推進センター)
第15回 (7/30)	芸術文化活動と大学の連携	浅井 暁子 (人間社会研究域学校教育系)
第16回 (8/6)	<期末レポート>	浅野 秀重 (地域連携推進センター)

・評価

木曜日1限に開講し、主たる履修者は事実上1年生であるが、多様な分野における「大学と地域との連携」について学ぶことができることから、受講生からの評価もまずまずである。

受講者数も年々増加傾向にあるものの、履修スケジュール上の問題から、受講者の所属学類（主に医学類）に一部偏りがみられるため、全学的な受講となるような工夫が今後求められる。

## 6 広報活動

### 6-1 ホームページによる発信

平成 23 年度に全面改良を施した地域連携推進センターのホームページについては、多様化したセンターの事業について、ホームページの深層に入らなくても、市民が要求する情報にたどり着けるようにするため、平成 26 年度に全面改良を実施した。

(地域連携推進センターURL <http://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/>)

### 6-2 キャラクターの活用

ホームページでの情報発信に際して、学生が地域連携事業やその情報に少しでも関心を持ってもらえるよう、地域連携のイメージキャラクター（名称：つきのわ・かくま）を学生から募集し、ホームページはもちろん、センターの施設上部に掲げる広報用横断幕への掲載、SNS での活用など、新しいメディアを活用した情報発信に努めた。

#### ・評価

SNS など新しいメディアの活用や、キャラクターを活用した情報発信のスタイルなど、学生などの若い世代へのアプローチとして新しいチャレンジに果敢に取り組んでいる。ICT を活用した金沢大学公開「e」講座の構築も含め、インターネットを活用し硬軟取り混ぜ金沢大学の学びのポータルを目指していることは評価できる。

## 金沢大学 地域連携推進センター

Kanazawa University Center for Regional Collaboration

[活動報告](#) [リンク](#) [サイトマップ](#)

センター概要 地域連携事業 生涯学習事業 学生活動 広報情報 お問い合わせ

最新活動 >一覧

2015/12/17  
食と遊びを通じて楽しむ金沢のお正月...

2015/11/04  
地域連携事業 学生活動  
金沢大学竹糸会「古典の日」イベント開催...

2015/10/13  
地域連携事業 学生活動  
【Zero-Journey】マン  
ドリンゴ...

寒くなってきたよ。風邪ひかないようにね！

7 外部資金等受入状況（参考資料）

平成 25 年度

（単位：千円）

外部資金	99,910
文部科学省 特別経費	51,360
文部科学省 地(知)の拠点整備事業	45,690
寄附金(株式会社アプリス 目的学生の地域貢献活動)	200
寄附金(富士フィルム・グリーンファンド)	2,000
寄附金(中村浩二)	90
大学コンソーシアム石川	570
農林水産省 「農」のある暮らし	2,680
受託事業	41,760
能登キャンパス構想推進協議会(キャンパス事業)	6,690
能登キャンパス構想推進協議会(人材養成事業)	29,900
JICA イフガオの棚田	2,280
文部科学省 社会教育主事講習	1,910
文部科学省 学校図書館司書教諭講習	630
大学コンソーシアム石川	200
能登再生フィールド学構築・実践プロジェクト実行委員会	150

平成 26 年度

（単位：千円）

外部資金	91,990
文部科学省 特別経費	23,880
文部科学省 地(知)の拠点整備事業	42,890
寄附金(株式会社アプリス 目的学生の地域貢献活動)	150
大学コンソーシアム石川	270
寄附金(富士フィルム・グリーンファンド)	2,000
寄附金(珠洲市)	20,000
農林水産省 「農」のある暮らし	2,700
金沢市	100
受託事業	26,670
文部科学省 学校図書館司書教諭講習	420
文部科学省 社会教育主事講習	1,890
JICA イフガオの棚田	20,160
大学コンソーシアム石川	200
能登キャンパス構想推進協議会(キャンパス事業)	2,800
能登キャンパス構想推進協議会(ワールドチャレンジ事業)	1,200

外部資金	127,000	
文部科学省 地（知）の拠点大学における地方創生推進事業	37,000	
文部科学省 (COC+)地（知）の拠点大学における地方創生推進事業	68,000	
寄附金（富士フィルム・グリーンファンド）	2,000	
寄附金（珠洲市）	20,000	
受託事業	27,220	
文部科学省 学校図書館司書教諭講習	420	
文部科学省 社会教育主事講習	2,210	
JICA イフガオの棚田	20,960	
能登キャンパス構想推進協議会（キャンパス事業）	3,500	
大学コンソーシアム石川	130	
受託研究	840	
科学技術調整振興費	600	
石川県	240	

## 8 外部委員の評価のコメント

石川県企画振興部課長（高等教育振興・国際機関連携担当） 寺坂 公佑氏

### 1. 全般的な評価

センターの使命である、金沢大学の教員、職員、学生が大学内で培った研究と教育の成果を広く地域社会に還元するという点について、生涯学習部門において、理工系の分野の講座数の増加や、遠隔地教育システムを活用した講座提供、E講座の提供といった各種講座の充実、社会教育主事や学校司書教諭講習などを通じた地域の人材育成に関する取り組みを着実に進めていただいている。

また、地域連携部門においては、学生が実際に地域に入って、地域の方とともに貢献活動を推進する取り組みを進めるとともに、里山里海に関する研究成果をもとに、地域で活躍する社会人養成にも取り組み、受講生が終了後も地域に定着して活動するといった成果も上がってきている。

さらに、地域のニーズを把握し、大学運営に活かすためのタウンミーティング等の仕組みも構築してきており、限られた人員・予算の中で充実がなされてきていると評価できる。

### 2. 今後の課題

大学に求められる役割はますます多様化してきており、直近では、地方創生が国・地方を通じた大きな課題として取り上げられ、大学には卒業生の地域への定着といった取り組みが求められている。

こうした新たな課題に対応していくためにも、既存の事業でも地域貢献の観点からの必要性を再度検証しつつ、さらに地域との連携体制を充実させていくことが重要な課題であり、関係の各組織と日常的に対話を行い、地域との距離をさらに近づけていくとともに、地域連携推進センターを窓口としつつ、地域の課題に係る教職員の輪を学内で広めていくことが求められる。また、複数の大学が連携し、地域課題に取り組むという案件も増えてきており、他大学の地域連携組織とのネットワークを強化していくという点も重要である。これは、まさに地域連携推進センターが目指している、地域社会、大学関係者ともが気楽に立ち寄り、相談できる体制を作り上げていくということである。この点からの検証が今後の評価体制の中に組み込まれていくことも有用ではないかと考える。

## 1, 全般的な評価

### (1) 生涯学習部門

住民の学習ニーズに応える学習機会の提供として、多様な公開講座・ミニ講演・公開「e」講座・自治体との共催講座が実施されている。大学に蓄積された研究と教育の成果が、広く地域住民に還元されており、この3年間では新たに「ICT」を活用した事業展開していることも高く評価したい。

また、サテライトでの事業・東京都中央区と共催の事業・新聞社と連携した事業が実施されていることも、金沢大学として蓄積した研究・教育の成果を還元するものとして重要な意味を持つと言える。

大学の果たすべき重要な役割の一つとして、社会教育・生涯学習専門職員の養成事業が挙げられるが、長年「社会教育主事講習」と「学校図書館司書講習」を実施し、社会教育主事については「フォロー・アップ」の研修を実施してきていることは、現在の社会状況において重要な意義を持つと考える。

こうした研修事業や自治体と共催の事業を追求することは、地域生涯学習のネットワークづくりを展開していく上で、「地方創生」にもつながるものであると期待できるものである。

### (2) 地域連携推進部門

石川県および長野県の自治体をフィールドとして、学生の参加・参画による多様な地域活性化を目指す事業が実施されている。また、多様な地域課題を住民とともに考え、解決に向けて努力しようとすることは、学生の教育という意味でも大きな可能性を含むものと考ええる。

「里山里海」に関する研究活動を基盤とした「里山里海マイスター」という教育システムは、地域における人材育成事業として重要な意義を持っている。

以上、2つの部門が多様な事業を展開するとともに、COC事業及びCOC+事業にも取り組み、地域の知の拠点としての役割を追求することで、地域社会に開かれた大学づくりを図るという目標は達成できているものと評価できる。今後の地域連携推進センターの活動をより充実させるものと期待するところである。

さらに、センターの3年間の事業を展開する上で、行政・民間からの外部資金を積極的に利用していることは注目される。地域のニーズに応えつつ新たな事業について積極的に展開を図っている点は高く評価したい。

## 2, 課題

今後の課題として以下の2点を挙げたい。

(1) 住民の多様な学習ニーズを的確に把握するための努力がより必要とされるとともに、今後は「学習成果の活用」を視野に入れた教育プログラムの開発が求められてくるのではないかと考える。そのためにも、公開講座・ミニ講演への参加者や、地方自治体の社会教育・生涯学習専門職員などとの積極的な「協働」が、今まで以上に必要とされているのではないかと考える。

(2) 地域との連携事業において学生の積極的な参加・参画を図っているが、地域では将来を見据えた若者世代の地域活性化への参加・参画が求められる社会状況にあることから、より丁寧に地域住民の期待に応え、それに合致した事業展開を求められていると察するところである。持続的に個々の学生が主体的に地域の担い手と成り得るプログラムの新たに開発していくことも大切ではないかと考える。